

平成27年第3回

仙南地域広域行政事務組合  
教育委員会定例会会議録

平成27年9月30日開議

平成27年第3回仙南地域広域行政事務組合教育委員会会議録

1. 召集日時 平成27年9月30日（水） 午前10時30分
2. 召集場所 仙南地域広域行政事務組合3階研修室
3. 出席委員 教育長 佐藤隆夫，委員 川島陽子，委員 菊地俊彦，委員 佐藤芙貴子，委員 佐藤茂廣
4. 説明のため出席した者  
教育次長兼仙南芸術文化センター所長 水戸雅彦  
主幹兼教育係長兼文化振興係長 黒澤良
5. 開 会 午前10時30分

6. 平成27年第2回教育委員会定例会会議録の承認について

佐藤教育長	会議録について承認を求めます。
( 質 疑 )	<ありません>との声
佐藤教育長	質疑ないものと認め、会議録を承認します。

7. 会議録署名委員の指名

佐藤教育長	私のほか、佐藤芙貴子委員にお願いいたします。
佐藤(芙)委員	はい。

8. 諸報告

報告第1号 仙南地域広域行政事務組合教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の実施要綱の一部を改正する訓令について

水戸教育次長より、資料1にてご説明申し上げます。現行では点検評価を委嘱する有識者に対して報酬は支給しないこととしていたが、構成市町の点検評価と報酬の支給状況を調査したところ、当組合の状況においては謝金を支給することが妥当であると判断して、改正するものである。

(質疑)	質疑なし。
------	-------

報告第2号 平成27年6月から同年9月までの主な事業等の経過について

教育委員会事業について、黒沢主幹より資料2にてご説明申し上げます。

仙南芸術文化センター事業について、水戸教育次長よりご説明申し上げます。

( 質 疑 )	
佐藤教育長	6頁のシニアライフに向けたパソコンの講座を2回開催してますね。3日間。参加者の平均年齢をどのくらいかなど。だいたい何歳から何歳くらい。
黒澤主幹	だいたい皆さん、60以上。
佐藤教育長	60以上ですか。
黒澤主幹	50歳以上という括りで募集はしたんですけど、60以上。仕事をもうお辞めになった方がほとんどです。
佐藤教育長	最高齢が。
黒澤主幹	最高齢は70代の方が。
佐藤教育長	80なんかとかでなくて。

黒澤主幹	80歳は来てなかったです。
佐藤教育長	そうしますと、60歳から70歳の方でパソコンやってました。
黒澤主幹	自分ではやっているんですけども、なかなか編集まではできないとか、発表の機会があるので、プレゼンテーションをしたいという方が。
佐藤教育長	かなり高度なニーズがあったんですね。
黒澤主幹	高度というか基本的なところを、何回もやってほしいということでやったんですけど。
佐藤教育長	映像を取り入れるとか。写真を編集するとか。
黒澤主幹	はい。文字を入れたりとか。
佐藤教育長	そうするとこれから仕事とか、プレゼンとかをするために、目的を持って来ているわけですね。漫然とではなくて。
黒澤主幹	そうですね。これから地区での発表とかですね、自分でいろいろやりたいんだってということで、来ていらしてました。
佐藤教育長	60歳で公務員辞めたとか、あるいは会社を辞めたという方々が、こういうところに入って、シニアのパワーをまたグッと伸びるというのをね。自分で作るとか、会社立ち上げるとか、いろいろ繋がっていくと良いかなと。どうもご苦労様です。良い機会だと思います。
黒澤主幹	こういう方々に向けて、今度自作教材とかをPRして行って、地域の映像を作りませんかという事で働きかけをしていきたいなっていうことは、いろんな講座を開催してみてもいいんですけども。時間はあるんだと私たちにはと言われるんですね。ということで、何とか自分たちでいろいろやりたいんだというお話があったものから。
佐藤教育長	これからの期待がいっぱいこもっているようなね、活動になったと思ってます。
川島委員	何度もやってほしいというのはすごくよく分かります。私もこういうので、アテネで勉強したんですけど、そのときは分かった気になるんです。だから結局、3年連続同じ講座に行きました。そしたら同じメンバーがいっぱいいました。自分一人になったときにやれないんですよ。だからたぶん自分のものにするには、やっぱり何回かする必要はある。
黒澤主幹	3日間では足りない。5日間とか6日間やってくれという話を。同じ内容をいっぱいやってほしい。繰り返しやると思い出してはやれるという話がありました。
川島委員	国勢調査の調査員に聞いたら、今ネットでやるって聞いてて。そんなにここ年寄りばかりだもの、そんなにいねべねなんて言いながらうちに来たんですけども、うちでやるって言ったら、えーってびっくりされたんですが。その結果をもう一回聞いて歩くと、ほとんどお家がネットでやったという。本当に年寄りだけの団地なんですけど。ほとんどの人が息子が来たときに教えてもらって、来年も同じことをやる。本当に紙で答えたところは数少ない。私もそれ聞いてびっくりしました。だから、ニーズはたくさんあるんじゃないかなと思いますね。
佐藤教育長	これをきっかけに、新しいニーズの掘り起こしというのにも繋がっていけば良いなと思いますけどね。今年、新規事業としてね、取り組んだものがうまく軌道に乗っていくように尽力をお願いしたいと思います。他に質問どうですか。
佐藤(茂)委員	はい。6頁のところですね、本当に広域の先生方、毎日のようにね、講座とか出前と

佐藤(茂)委員	かやっていたいで、すごいなと感謝します。ありがとうございます。あとその中で7月3日辺りの16ミリ。よく話聞くと映写機もなくなっているとか、フィルムもなくなっているとか聞くんですけども、この3名の方というのは免許更新なのか、それとも新規の方なんですか。
黒澤主幹	更新ではなくて、新規の方で新しく保育園の先生とか児童館の先生とかで持っていない方がいらっしまったということで、今回3名の方が。蔵王町さんもそうなんですけど、川崎町さんの保育所の先生方は熱心に借りていただいております。先生が変わる度に受けますということで。
佐藤(茂)委員	必要なんですね。
黒澤主幹	うちの方でも、1台なんかあるので、それで対応しております。
佐藤教育長	他に質問ございませんか。えずこホールのことでは質問ございませんか。
	<質疑なし>

## 9. 議事

### 議案第1号 仙南地域広域行政事務組合教育委員会委員の辞職の同意について

菊地委員に関わる案件のためご退席願ひ、角田市教育委員会委員の任期満了に伴い辞職する旨を地方教育行政の組織及び運営に関する法律第10条の規定に基づき同意を求めた。

( 質 疑 )	質疑なし。
佐藤教育長	異議がないものと認めます。よって本件については同意した旨を理事長に報告することといたします。以上で本件は終了いたします。菊地委員に入ってください。では、ただいま提出いただきました仙南地域広域行政事務組合教育委員会委員の辞職の同意の案件につきまして、これに同意するものと決しましたので、菊地委員にお伝えいたします。それでは委員退任のご挨拶をお願いします。
菊地委員	このような場でご挨拶の機会を頂戴しましたことを、大変恐縮に存じます。ただいま教育長さんの方からお話がございましたように、私これまでの長い間、この仙南地域広域行政事務組合教育委員会の教育委員として、ご一緒させていただきました。この期間の中では、様々お世話になってきましたけども、教育委員会としてはいろいろと大きな問題、課題がたくさんあった期間でもあったと思います。そうした中で歴代の議長さん始め、職員の皆様方の温かいご配慮、お力添えを頂きながら、私におきましては、何とか勤めを果たさせていただけたのかなと、そんなふうに思っております。しかし、正直のところ、何かご迷惑をかけてきた、あるいは何のお役も立てなかったのではないかと反省しきりの今の心境でございます。どうぞそこはこの席に免じまして、勘弁願ひたいと思います。水戸所長さん時代になりましてからは、着々と改革を進めてきていただきました。これからますますこの仙南広域の教育委員会が果たす役割は大きくなっていくのではないかと考えております。どうぞこれまで以上に役目を果たしていただきますよう。そして、この仙南地域広域行政事務組合教育委員会の益々のご発展とそれから各教育委員の皆様方、そして水戸次長さん始め職員の皆様方一人一人のこれからのご健勝をお祈りいたしまして、退任に際しましての拙いご挨拶とさせていただきます。本当に皆様、ありがとうございました。

**議案第 2 号 平成 27 年度仙南地域広域行政事務組合教育費補正予算（第 1 号）について**

水戸教育次長より別紙資料 3 にてご説明申し上げます。

今回の補正の要点は前年度繰越金の処理である。

( 質 疑 )	質疑なし。
佐藤教育長	それでは異議のないものと認め、決定いたします。

**議案第 3 号 平成 27 年度仙南地域広域行政事務組合仙南芸術文化センター特別会計補正予算（第 1 号）について**

水戸教育次長より別紙資料 4 にてご説明申し上げます。

今回の補正の要点は前年度繰越金の処理である。

( 質 疑 )	質疑なし。
佐藤教育長	それでは異議のないものと認め、決定いたします。

**議案第 4 号 仙南地域広域行政事務組合教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価について**

水戸教育次長より別紙資料 5 にてご説明申し上げます。

( 質 疑 )	
菊地委員	はい。
佐藤教育長	はい。どうぞ。菊地委員。
菊地委員	水戸次長さんのご説明、お話によって概ねこれでよろしいのではないかと思いますけれど、8 頁に、下の段の有識者の意見評価の真ん中に視聴覚教育のことが書かれていますね。私、ずっと思ってきたことなのですが、視聴覚教育が振り返ってみると昭和の 50 年あたりが非常に人気湧き起ってきて、学校の研究会などの場では他の教科領域よりも、視聴覚教育の領域が溢れるほどの賑わいようでした。しかし、今日的にはどんどんとそれほどでもなくなっているのは、1 つ、この視聴覚教育だけの問題ではないような気がするんです。それを取り巻く情報化社会が急激に進展してきて、情報教育というのがむしろ主役になってきている気がするんですね。そこでこの情報教育、この視聴覚教育と情報教育はどういう関係にあるのかということの押さえが、もっと皆さんで共有しておかないといけないかなと思うんですね。私は今日においても、視聴覚教育の役目というものはあると思うんですね。しかし、ずっと昔の視聴覚教育が主役的なその盛り上がりもあつたころと比べると、今は相対的に情報教育の方が主役になってきているのではないかと。だからその両方の関係がどうなっているのかということからは、皆で共有しておかなければならない。それからもう 1 つは、そういうことですから、教育事務所と連携することだけで、この問題は解決ならないと思うんですね。やっぱり教育事務所との連携も大事ですけど、もっとお互い同士の連携の方が。それは実践を通しての連携の方が効果的ではないのかなって思うんですね。実践を通して。視聴覚教育はどういう目的があるのかとか、どんなふうな現場でのやり方があるのかとかは、もう周知の理ですので、私はこの時代において情報化時代における視聴覚教育の実践例がもっとやっぱりでてきて、それを通して良さを、あるいは魅力を学び取っていくという、お互い同士の連携が大事でないかなと、そういうふうに思います。質問というよりは、若干意見の言い方だと思いますが、以上でございます。

佐藤教育長 教育次長	<p>これにつきまして、水戸所長及び黒澤主幹、どうですか。</p> <p>とても素晴らしい指摘、ありがとうございます。確かにまさに仰るとおり、ご指摘のとおり状況であると思います。ですので、視聴覚教育がこれからどうあるべきかというところ、今情報教育というところを仰られたんですけども、だからこれは視聴覚教材センターの在り方自体にそのまま結びつくものだと思いますので、いろいろ考えつつ、様々な方々からご意見頂きながら、視聴覚教材センターの在り方自体ということで考えていったら良いのではないかと非常に素晴らしい示唆を頂きましたので、いろいろ考えていきたいと思っております。ありがとうございます。</p>
佐藤(笑)委員	<p>私の意見、我が町の反省だけなんですけど、大きく三点、四点お話しさせていただければ、いろんなことでの参加の人数とかせつかく良いものがあるんですけども、地域住民の所謂足の便が悪いというか、そういったことと、文化的なことに関してのね、底辺の掘り起しというか引き上げというか、そういったものをもう少し生涯学習なり教育委員会の方でやっていかれないのかなって思いました。それから二点目なんですけども、所謂川崎町にも、所謂常長ゆかりの地ということで、そういった歴史文化的なこと、あと青根の旅館のね、今、大学の先生が入ってて、国からの補助金も頂いてね、そういったことでいろいろ調査が入っているんですね。そういったなかで、少しずつ少しずつ出来あがってきて、町でも町の社会教育主事ね、文化財を中心に地域住民に研修会をやっているんですよ。5回シリーズでね。昨年から。今年度は終わったんですけども。ところが本当にそれに参加する方は日中やるものですから、現場に行っても研修するものですから、10名といかないんですね、正直。でも、人数は少ないですけども、そういった人たちの今後に繋がりたいということで、友の会みたいなのを作ったんですよ。そういう文化財関係のね。だから、私の頭に今日閃いたのは、今日行ったらお話ししようかなと思ったんですが、参考にね。1つには所謂視聴覚のコンクールってありますよね。せつかくそういうのに、写真は撮ってきているんだけど、それをまとめたものがないし、実際に役場担当の中でも所謂作成できる職員もいるので、まずそこを繋がたらなど。だから、入賞するしないに関わらず、少しずつ調べてきたものを積み上げていく、残していく。そういったことを声かけていきたいなと思ったんですよ。あと1つ、お聞きしますけども、所謂蔵王町にでもですけど、うちの方にもBGがありますね。町の体育館みたいなことで。そういった職員がいるわけですよ。学校の体育の授業なんか、所謂プールの時期になれば、着衣指導というか着たままでとか、カヌーとか何かも含めて、いろんな体験学習を進めているわけなんですけども、それも毎回資料的なものを作って、紙ベースだけのを作って説明をしながらやっているんですね。そういったものも含めて視聴覚的なVTRで見せながら、そういったところから実技に入っていくといいのかなと。そういった内容のも視聴覚コンクールとしては、採用OKなんですか。例えば教材を作るという意味で。</p>
教育次長	<p>そうですね。</p>
佐藤(笑)委員	<p>学校教育ではないですけども、そういった。だからこれも声かけていきたいというふうに思ったんですけど。あと、講習会ね。富岡幼稚園とかほんのわずかな人数でね、いろいろ来ていただいてね、本当ありがたく思っているんですけども、やはり先生方のね、所謂保護者への便りも含めてね、いろいろ写真を入れたりなんなりね。何年か前からすると、随分レベルアップしてきているんですね。それはこちらからの出前事業だったり、たぶん教え合いっこしての、そういったことに繋がって</p>

佐藤(美)委員	<p>るんですけども。やはりこの日中、幼稚園はやれるんですけど、保育所っていうのは難しいですよ。所謂働くお母さんのね、支援をしていかなきゃならないので。一日中子どもいるわけですよ。だから、こう何回かシリーズぐらいで、この保育所の2市7町の研修会だけではなくて、そういったことにも事務局の方から働きかけ、私の方からも年に何回か来ていただいて、そういったことも。富岡幼稚園は午後は子どもたちいなくなるからやれるんですけども、こども園の先生方はやれないですよ。一日中いるからね。その辺を含めて、どうやったらやれるかということで、全体の2市7町の視聴覚含めての広域の教育に関する評価でなくて、私は我が町の反省も含めて、こんなことやってみたいなど。早速実現できるか分からないですけども、まず話してみないことには、やってみないことにはって、前向きに。こんな素晴らしいことをね、やっていただいてという想いでいます。感想と共に反省も含めて話させていただきました。ありがとうございました。</p>
佐藤教育長	<p>力強いお言葉を頂いたので、参考にしてね。これから進めていきたいと思います。それでは他にございませんか。</p>
佐藤(茂)委員	<p>はい。</p>
佐藤教育長	<p>はい。どうぞ。</p>
佐藤(茂)委員	<p>12頁の随分と入場者が多い。素晴らしい演劇で、見に行ったんですけども、久ぶちに見させてもらっていいなと思っておりました。ここに課題として、応募者というんですか、少なくなっているんだというのが気づきませんでした。それで学校の募集人数というのは毎年定員決まっているのでしょうか。それと同時に、それに対する合格率というんですか、年々どうなっているのかというのが、もし分かれば良いと思います。この仕掛けを検討していくというのもなかなかね。これも大変だと思うんですけども。もし分かる範囲で。</p>
黒澤主幹	<p>一応、劇団としては40名ぐらいを指導者は考えています。40名いれば、ある程度の配役とか、一人で何役もしないで、だいたいこうできるような人数ということで、2時間ぐらいの劇ということで、やりたいと思っているんですが。今までですと、ある程度募集をかけた場合、4年生から始まって4,5,6と3年間活動していただくんですけども、4年生だけを対象に募集をかけても、ある程度の人数は集まってきてたんですけど、このところ4年生でやっても来ない。ですから、4,5,6と3学年分、6年生でも1年間でもいいですから活動してみませんかということで呼びかけて、やっと30名台をキープしているような状況です。合格率の話なんですけど、今までですとオーディション。オーディションっていうと構えてしまって、落とされるんじゃないかという先入観で応募されないというか、そういうのもあったもんですから、入団面接ということで面接をして、お話を聞いて、やりたいというのであれば、どうぞ入って活動してくださいということで、すべてそういった方は入団していただいております。100%です。ただ年度途中でどうしてもっていう方はいらっしまったんですけども、一応最近ですと、4年生から入って3年間やっていただいて、卒業してからもOB、OGとして、今度公演の手伝いを自主的に先輩方の姿を見まして、そういったことも続けていっておる状況です。もう少し人数的にいるとですね、いつも指導者が苦勞するのが配役なんです。役がいっぱいある、一人にセリフをどうしてもあげたいということで考えるんですけども、人数が少ないために、一人で2つも3つもやんなくちゃいけないというところが苦しいところとは言っているんですけども。そのようなことです。</p>

佐藤(茂)委員	応募者は少ないけども、申し込めばだいたい 100%で。
黒澤主幹	もちろん。やりたいということであれば。ただ演劇だけでなく、ダンスとか歌とかミュージカル風なものということで、こういうのもやってますという PR ももちろんしているんですね。演劇というだけでなく、いろんな広がりもありますよってことでお話ししているんですけども。
佐藤(茂)委員	あと各学校に PR したいと思っています。
黒澤主幹	はい。毎年お願いはしているんですけど。
佐藤(茂)委員	ある一人のお話ですけども、入ると親の人たちも親子ですからおかしくはないんですけども、忙しいんだ、忙しいんだっていう声も聞くこともあったもんですから。
黒澤主幹	親御さんのお手伝いなくては、本当に成り立たないの。
佐藤教育長	12 頁で今、佐藤委員からの質問の中に意見に対する対応として、参加する仕掛けを作るとはどういうふう。
黒澤主幹	仕掛けというのは、今年度、この前やりました演劇体験ワークショップを新しくやりました。その中で受けていただいたのが、今回入った 2 名の子なんですけども。4 日間参加していただいて、やりたいということでお試しレッスンに来ますということで、今回 2 回受けていただくような状況もあって。そういったワークショップとかも重ねながら、いろんな形では仕掛けていきたいなっていうふうには考えているんですけど。なかなか呼びかけだけでは来ていただけないので。子どもさんたち、いろんなことをやっているの、忙しいんですね。その中でも、うちの方でもアクターズということになるとさらになんですけど。自分でやりたいという方がいらっしやれば、そういうの汲み取って、うちの方でも。
佐藤教育長	他にはございませんでしょうか。
川島委員	はい。
佐藤教育長	はい。
川島委員	24 頁のところなんですけど、鑑賞事業の来場者数というところがあったんですけど、有識者の方は数%も満たないという解釈をしていますが、実際 4%もの人が利用しているというのは、これは別な考え方からすればすごいことじゃないかなって、私は解釈したんですけど。4%というパーセンテージを少ないとみるかすごいとみるかなんですけども。私の感覚からすれば 4%もの人がえずこという場所に来る、足を向けるというのはすごいことじゃないかなと思います。これ以上多くする、まだまだ機会があるので、まだまだ足りないのもっとやってほしいとかってはあるんですけど、もうあの行事なんかも見ると、これ以上誰がやるんですかというようなくらい、たくさんの行事が目白押しなので、精一杯やっているんじゃないかなと、私は解釈したんです。
佐藤教育長	このことについて、事務局から何か意見ありますか。4%という数字がどの程度のものなのかというのを、もし掴んでいたら。
教育次長	この 4%というのは延べ人数なので、実人数ではもう少し、恐らく 1%を切るくらい、1%程度だと考えていいのではないかと思っております。逆に今、ワークショップとかアウトリーチは、今この 3 倍くらいになってますので、2 万 3 千人になっています。それですべての事業の参加者数は、人口の 20%になっています。延べ人数でですけども。人口の 20%を実人数で言うと、たぶん 5%くらいまで落ちる

教育次長	のかと思います。と言いつつも、人口の5%くらいの人がえずこの事業に参加しているというのは、決して低い数字ではないとは思っております。
佐藤教育長	仙南広域の全体で。
教育次長	全体の18万人。
佐藤教育長	18万人の5%とというと、数字としては大きいと。ですから、都市部とか考えれば、総枠の人口に対しての比率として考えれば、かなり高いということ。なおこのことにつきましては、他の市町です、参加率とかなんかもこれからも調べていながら、この推移を見守っていきたいというふうに思います。よろしくお願ひします。他に質問は、8頁の、先程、菊地委員からもご指摘あったところなんですけども、この教育事務所の働きかけだけではできないとあったんですけど、その中にですね、教科の理科とか社会科とかの教材を揃えてますけども、併せて視聴覚教材センターで作った作品を、志教育ということで関連付けてですね、志教育等と入れておくと非常にインパクトがあって良いかなと思います。宮城県側もここ数年で力を本当に込めて、宮城県教育の推進のですね、大きな核にしている訳ですから。そういうのも含めながら、今までの自作教材も非常に役立つものがございますので、それを活用していただいてというのもですね、教育長会議でも伝えていきますので、その辺も触れて、等ってことで入れていただくとか、そういうところを今から修正するとしたらですね、そういうところもお願いしたいと思います。その他意見ございませんでしょうか。
川島委員	はい。よろしいでしょうか。
佐藤教育長	はい。川島委員。
川島委員	視聴覚教育と情報教育と、先程菊地先生からお話あったんですが、視聴覚教材センターという名前からして、役割というのは、教育分野は学校とか教育施設でやる分野であって、それを下支えするセンターなんじゃないかな。そこがあまりに教育という分野に出ていくと、そうなるくとまた別な構成を作らなきゃ、メンバーとしてのね、その構成をしないといけないだろうし。その教育の分野を下支えする資料を揃えたり、講座をしたりということに、逆に徹した方が効果はあるんじゃないかなって、いつも思っていたんですけど。あまりにも役割を広くしてしまうと、さっきこの意見の中にも、住民が主体となって事業をやって、それを補助していくとか、それに一緒に関わりを持つというふうな意見があったんですが、こちらが中心になって教育の分野までしなくちゃいけないというのは考えなくても良いのではないかなと、常々、現場に居た頃も教材センターの役割は、私たちがやっている教育の補助役、アシスタント役、土台になってもらう方が良いのではないかと思います。
佐藤教育長	貴重な意見を頂きました。これからの視聴覚教材センターのですね、在り方につきましては、今たくさん頂きました議論をですね、広域の議会でも同じようなご意見が出てきております。今後の在り方と、菊地委員、川島委員のですね、ご意見を基にこれからも議論を重ねて参りたいと思いますので、その辺も含めながらですね、受け止めていただきたいと思います。その他、質疑ございませんでしょうか。 <質疑なし>
佐藤教育長	それでは異議ないものと認め、決定いたします。

### 10. 次回教育委員会定例会の日程について

佐藤教育長	それではこのとおり、平成27年11月30日午前10時ということで、次回の定例会を実施いたします。
-------	--

### 11. その他

#### ○ 仙南地域広域行政事務組合視聴覚教材センターの移転について

水戸教育次長より資料6にてご説明申し上げます。

平成27年7月23日開催、当組合第226回議会定例会の際に可決した仙南地域広域行政事務組合視聴覚教材センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例による視聴覚教材センターの設置場所の変更、移転までの事務的な流れについての説明を行った。

( 質 疑 )	質疑なし。
---------	-------

#### ○ 平成27年度全国自作視聴覚教材コンクール入賞について

黒澤主幹より資料7にてご説明申し上げます。

仙南地区からは5作品を出品し、うち1作品(齋藤良治・引地昭夫作「雨乞いの壺－鹿島神社の伝説 その2－」<紙しばい>)が入選した。

( 質 疑 )	
佐藤(笑)委員	はい。単純な質問ですけど。
佐藤教育長	はい。
佐藤(笑)委員	笑われる質問ですけど。齋藤先生って年齢聞いてもよろしいでしょうか。
佐藤教育長	80歳かな。
佐藤(笑)委員	すいません。随分頑張ってるなっと思って。すいません。この会に相応しくないことを聞きました。
佐藤教育長	いえ、大切なことです。どこまでも自分の視聴覚教材ということをやって、今、丸森の作品として5つ目ですか。毎年必ず1作、2作を仕上げるという信念の下に取組んでいただいております。こういう人が各地区に2、3チームくらい出ればですね、視聴覚教育も非常に盛り上がるのではないかなと期待してます。その他、ありませんでしょうか。 <質疑なし>

### 13. 閉 会 午前12時07分

上記の会議の顛末を記録し、その内容が真正であることを証するためにここに署名する。

平成27年11月30日

教 育 長

署名委員